



プロジェクト名称

candle night

プロジェクト活動概要

現代の人は仕事などで忙しい毎日を送っています。そこで、夏至と冬至の夜の2時間だけでんきを消して人々にスローな夜を提供しようと活動を行っています。2011年は東日本大震災が起こり、日本のエネルギー問題が露わになりました。これを期に人々にでんきの明るさだけに頼らず、ろうそくの明かりの大切さと脱・原子力運動を知り、省エネやエコについての考えを増やしてほしいと願っています。夏至には芝浦工業大学大宮キャンパスでキャンドルナイトを行い、冬至にはアトレ川崎でキャンドルナイトを開き、また、地域交流として地域の方々にキャンドル教室を開き、ろうそくの身近さを知ってもらう機会を設けます。

目次

6月	candle night@omiya campus 2013	1
7月	岩手県復興支援プロジェクト敷地現地調査	2
8月	キャンドル教室@芝浦工業大学大宮キャンパス	3
	岩手県復興支援プロジェクト	4

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年6月1日～9月30日

candle night@omiya campus 2013

■実施日時：2013年6月24日(金) 19:30-21:00

■実施場所：芝浦工業大学大宮校舎

■テーマ：ヒノコエ～焔・涼・緑～

<インスタレーション> ~夏至~

■目的

でんきの明るさだけに頼らず、ろうそくの明かりの大切さを知り、省エネやエコについて考える機会を増やす。

■イベント当日の状況

今まで使い捨てられていた空き缶やペットボトルなどを用いることでエコについての考えを増やしてもらうことを目的としました。そのため、来場者の方々に家庭で出た資源を持参していただきました。来場者にキャンドルを持って歩いてもらうことでより火の暖かさを感じてもらおうワークショップも行いました。今回から新しい広報活動として回覧板を用いた宣伝を行い、その結果来場者数は去年に比べ3倍の人数の人々にお越しいただきました。

来場者数 180名(推定)

■当日の様子





<カフェ> ~夏至~

- 目的
切り紙や加工したろうそくを通してかたちをかえた光の良さを感じてほしい。

- イベント当日の状況
カフェの設置場所をインスタレーションの作品の内側に設けることで来場者の方々に座りながらも、キャンドルを楽しんでもらえる配置計画にしました。また、キャンドルナイト開始時刻より早くご来場された方々へはコーヒーや紅茶、軽食を配布し、またインスタレーションの来場者との参加型の作品の説明を行うことで来場者の方々に飽きさせない工夫をしました。そして、脱・原子力運動を知り、省エネやエコについての考えを増やしてほしいことから人々が原子力問題についての認知度を高めるためアンケートを実施しました。アンケートにお答えいただいた方々へは私たちが制作した手作りキャンドルを差し上げました。

アンケート回答数 100名

- 当日の様子



岩手県復興支援プロジェクト敷地現地調査

- 実施日時: 2013年7月27日(土)~7月28日(日)
- 実施場所: 岩手県大船渡市三陸町越喜来泊地区
- 概要

津波の影響を受けた被災地でのイベントはプロジェクト初であり、インスタレーションの規模としては最大でありました。対象敷地は海が近いことによる潮風の影響や土壌環境(雑草など)の考慮が予想される環境でありました。インスタレーションの設置予定地には傾斜地が含まれており、勾配を考慮することが必要となりました。また、地域住民の方々と話し、どのようなことが出来たらよいかヒアリング等を行い、案出しのベースとさせてもらいました。

現地調査を行った際、震災から2年半が経過した現状や震災の悲惨さを痛感しました。今後のチャリティー活動では、キャンドルに興味を持ってもらうだけでなく、風化してしまっている被災地のリアルな現実や復興状況を知り、チャリティーを通して復興支援に協力してもらうことで、継続的な復興支援をしてもらえるよう、また、将来起こりうる大地震への準備等の危機的意識を持ってもらえる様、伝えていきたいと感じました。

- 現地の様子





キャンドル教室@芝浦工業大学大宮キャンパス

■実施日時: 2013年8月9日(金) 10:00~12:00

■実施場所: 芝浦工業大学 大宮キャンパス 大学会館

■目的

地域交流の一環として行う活動。キャンドルの魅力を知ってもらうにはどうすればいいのか考えた時に、作品を見るのではなく実際に作ってもらえるとより魅力を理解してもらえるだろうと考察しました。基本的には小学生を対象としており、安全性のあるクリエイティブな作品を作っていただけるよう、日々考えています。

■製作作品概要

「キャンドルとはどのようなものなのか」、「こんなものまで作れる」など自由研究の場になればと思いました。テーマは「夏に関係するもの」で、今回使用した材料は水風船、貝殻、ティーキャンドル、シリコン製の型です。貝殻にはロウを流し込み身近なものに火をつけることで違った見え方がするというような作品にし、水風船には周りをロウでコーティングし、固まった後水風船を割ることで丸いロウが残るようにしました。最後に黒いロウで縞模様をつけ、スイカを作成しました。

■イベント当日の状況

参加者数は25名。うち幼稚園生以下3名、小学生15名、親7名。参加者、メンバー共に火傷等のけがはなく安全に行うことができました。小学生はエプロンを持参するなど教室を楽しみにしていたらしく、親御さんからは「自由研究の材料にしたい」など子供の学習面での評価をいただきました。

■当日の様子





岩手県復興支援プロジェクト

- 実施日時: 2013年8月22日(木)
- 実施場所: 岩手県大船渡市三陸町越喜来井戸洞仮設住宅付近
- 主催・共催
 主催: 芝浦工業大学作山研究室
 共催: 東海大学チャレンジセンター3.11 生活復興支援プロジェクト
 芝浦工業大学学生プロジェクト「candle night」
 NPO 法人 アーバンデザイン研究体

■イベント概要:

企画(「枯れ地に花を咲かせよう」～花木植林・草花畑&サマー・ナイトキャンドル～)は、芝浦工業大学作山研究室主催、NPO 法人アーバンデザイン研究体、および東海大学チャレンジセンター3.11生活復興支援プロジェクト、本プロジェクト協力のもと行うものである。下記目的のもと、『キャンドルナイト』や『思い出の「ば」』による空間演出を通じた、過去の「記憶」や新たな「交流」の場を創る。また、『桜の植林』を行うことで被災跡地への可能性を見出すきっかけとする。

以下は、芝浦工業大学作山研究室による企画目的。

- 目的1: 泊地区の住民の方々々に被災跡地の可能性を示す。津波で流されてしまった場所で出来ること、将来の活用方法を見出すきっかけづくり。
- 目的2: 柏中学生と泊地区の交流。学術機関による継続的支援のきっかけ。地元住民と若い世代の交流により生まれる縁づくり。
- 目的3: 柏中学生が将来、技術者として東北に関わりたいと思わせるきっかけづくり。復興支援により、中学生の将来教育へと繋げる。

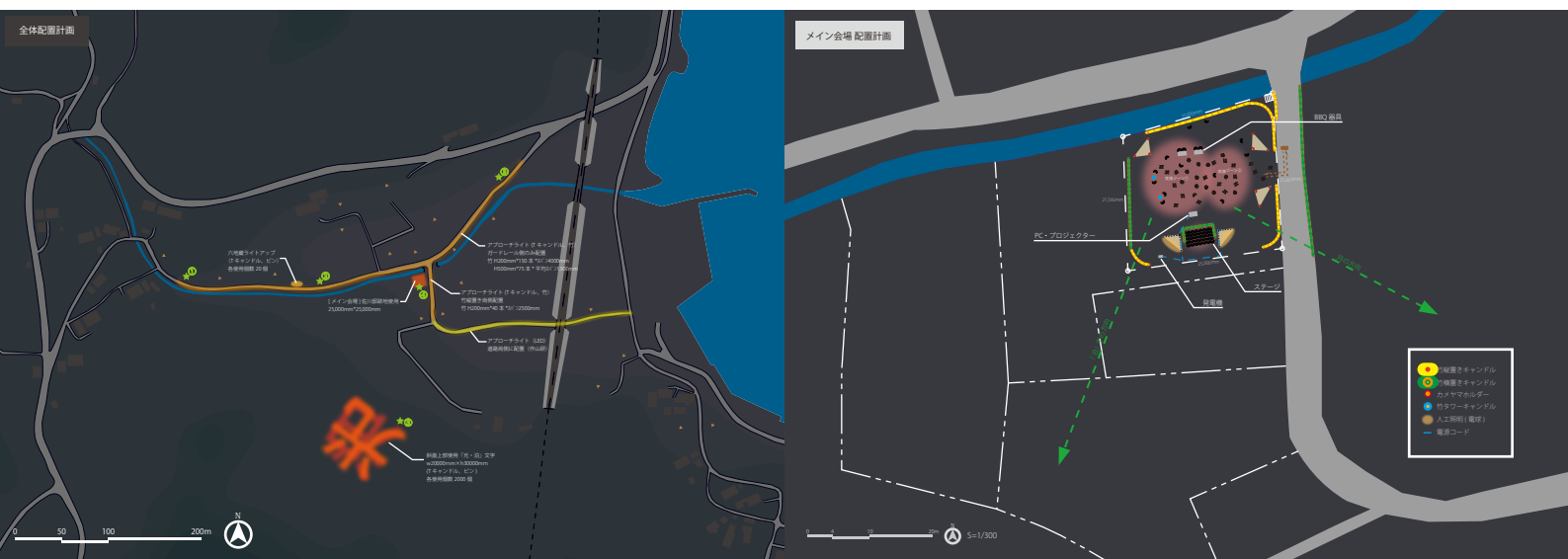
■企画概要:

本プロジェクトは、上記目的1、目的2をもとにテーマを「記憶」とし、全体的に補助的な役割として空間演出を創る。現在、跡地となっている場所は、津波危険区域として扱われ、住宅等の建設は制限され、未利用地となっている。そこで、芝浦工業大学作山研究室及び東海大学チャレンジセンターをサポートとする形で、メイン会場となる場所への導線ライトアップ・「泊」字焼きの2つをメインとし、空間演出をする。そして、ろうそくの光によって心の中にある未来への希望の光をイベントを通し、世界へ広げ共有し、「ひかり」という一つのネットワークを形成する。

■配置図

a)全体配置図

b)メイン会場配置図





■ イベント準備の状況

イベント前日の夜から現地で作業を始めました。内容としては、泊・光文字の配置スタディ兼レイアウトと現地の方々から頂いた竹を切る作業でした。泊・光文字の配置スタディ兼レイアウトの作業は予想していたよりも傾斜地が急であったため文字がつぶれてしまい一回目はうまく文字を浮かび上がらすことができませんでした。そのため、遠方からシーバーを使用し指示を出しながら微調整していきました。竹を切る作業では、イベント前日の夜から当日の昼かけて20mの竹20本を作山研究室の学生らとキャンドルナイトメンバーで切り続けました。前頁下方配置図a), b)の通り、アプローチに約270本、メイン会場に200本の竹を配置しました。

■ 準備の様子



■ 当日の様子



